

## ㊦ 紫色のシャンデリア

平成6年11月28日、ホテルフロラシオン青山を出て、地下鉄半蔵門線で永田町へ、そして、表彰式が行われる国立劇場に行きました。お堀の向こう側の皇居の木々がきれいに色づいていました。

会場の立看板の前で、奈良県東京事務所の方に写真を撮っていただき、式場に入りました。座席は中央部、前から7列目の6番の席、妻は私の左側でした。その向こうには、T中学校長夫妻、N教育長夫妻、奈良県からは3人でした。

定刻の12時に平成6年度文部大臣教育者表彰式が始まりました。

表彰状と記念品の授与のあと、文部大臣のあいさつや来賓祝辞があり、被表彰者を代表して全国連合小学校長会(全連小)会長のO先生がお礼を述べられました。この



間、私は、昭和33年4月からの道を思い描きながら「ありがたい。うれしいことだ。でも、ほんとうに私にいただいているのだろうか」などと考えていました。

表彰式のあと、バスに分乗して皇居に出発しました。坂下門から入るのは、平成4年から毎冬、全連小の理事として参内したときと同じですが、妻にとっては初めての経験です。宮内庁前で下車、お正月などに国民参賀が行われる東庭に向かいました。新宮殿が造営されたとき、国民からの寄付で建てられたという若松の塔の前で記念撮影がありました。

この後、皇宮警察の警察官が不動の姿勢で威儀を正している北車寄せから長和殿に入ります。黒御影石張りの床、通路には靴が沈むほどの厚い絨毯が敷かれています。樺板張りの階段を登るとき目を引くのが紫色のクリスタルガラスのユニット 3000 個からできていて重さが 2.3 トンもあるというシャンデリアです。

2階に上り、国民参賀のとき天皇ご一家がお立ちになる廊下を通過して、天皇・皇后両陛下にお目にかかる春秋の間に入ります。長和殿の中央にあるこの大広間（広さは 640 平方メートルだそうです）には、北の壁に春霞のたなびく浜の松原、南の壁に秋の霧がけぶる北山杉の森が描かれており、春秋の間という名前の由来になっています。天井は吉野杉、床には雲をイメージしたという手織緞通が敷かれています。

ほどなく、天皇・皇后両陛下のお出ましです。全連小理事として参内したときには、スーツをお召しでしたが、この日は黒のダブルの略礼服、皇后様も和服をお召しになっていました。これまで拝謁の後、帰宅する度に「皇后様はどんなお洋服でした？」と尋ねる妻は、しっかりと自身の目に刻みつけていたようでした。あとで、「北海道から沖縄県へと並んだとき奈良県は真ん中あたりでいいね」と、お近くに立てたことを喜んでいました。

天皇陛下からは、長年、各校種の教育に努めてきたことへのねぎらいのお言葉を頂戴しました。全連小から伺ったときには「児童」とおっしゃっていましたが、各校種の者が集まったこの日には「幼児や児童生徒」とおっしゃったのが印象に残っています。

この後は、皇居内の拝観です。長和殿の地下を通過して中庭に入ります。真っ白な那智石が敷きつめられた庭の向こうに正殿があります。そして、中庭の左向こうには白梅、右手前には紅梅の古木が対角線に配置されています。前年 2 月に拝観したときには一面に降り積もった

白雪にこの紅梅が映えていたのを思い出しました。正殿には歌会始めなど皇室の主要な行事が行われる松の間や竹の間、梅の間があります。

中庭を南に歩き、回廊の下を通って南庭に出ます。10数メートルもの大きさの鶴と亀の形に整えられた刈り込みの手前には、奈良県産の貴船石の石組みがあり、寝殿造に見られるような水の流れがきれいです。外国からの賓客がお通りになる南溜の前を歩き、中門を出ると、二重橋です。ここは唯一東京の街が見えるところです。右に折れ坂道を登っていくと道灌堀に出ます。太田道灌が築いたころの江戸城の名残のあるところ、この辺りは自然がいっぱいです。ずっと奥に進み、宮中三殿と呼ばれる賢所、皇霊殿、神殿の前を通ります。玉砂利を踏む足音が響き何か身の引き締まる思いがします。さらに奥に進むと、桑の木畑があります。これは、皇后様のお仕事・養蚕のためのもので、近くには昭和天皇の研究の場であった生物学御研究所がありました。

さらに進むと、西桔(はね)橋があり、ここを渡ると一般公開されている皇居東御苑です。天守台、桃華楽堂があります。時折、雅楽の音が聞こえてくる楽部庁舎から汐見坂を下ると二の丸跡です。ここは武蔵野を思わせる雑木林になっていますが、車の音が都心であることを思い出させます。同心番所、百人番所など江戸城名残の建物の前を通り、宮内庁病院のところから再び皇居内に入ります。東に歩くと富士見櫓が見えてきて、約1時間の参観が終わりました。

お土産にいただいた皇室ご一家のアルバムとお菓子(菊焼残月)、文部省からの銀杯を手にした私たちはバスで東京駅まで送ってもらい、前夜、祝賀会を開いてくれた長男夫婦に、一部始終を報告して帰宅しました。